

**第 6 回「利根大堰周辺の治水と環境検討会」 議事要旨**

**【会議概要】**

日 時	平成 28 年 8 月 30 日 (火) 15:30～17:30
場 所	利根大堰下流左岸／(独)水資源機構 利根導水総合事業所 説明ホール
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開 会</li> <li>2 挨 拶</li> <li>3 議 事           <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 議事の進め方について</li> <li>2) 検討会に係る情報の発信について</li> <li>3) 車両侵入抑止対策の効果について</li> <li>4) 水際再生ゾーンの整備について</li> <li>5) 利根大堰耐震化工事について</li> <li>6) 今後の予定について</li> </ol> </li> <li>4 閉 会</li> </ol>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 議事次第</li> <li>・ 席次表</li> <li>・ 設立趣意書／規約</li> <li>・ 名簿</li> <li>・ 資料 1 検討会に係る情報発信について</li> <li>・ 資料 2 車両侵入抑止対策の効果について</li> <li>・ 資料 3 水際再生ゾーンの整備について (案)</li> <li>・ 資料 4 利根大堰耐震化工事について</li> <li>・ 資料 5 今後の予定について (案)</li> <li>・ 参考資料 1 第 5 回利根大堰周辺の治水と環境検討会議事要旨</li> </ul>
出席者	<p>(団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新井 千明：NPO 法人熊谷の環境を考える連絡協議会 副会長</li> <li>・ 今村 武蔵：NPO 法人ふるさと創生クラブ 代表</li> <li>・ 岩田 薫：全国環境保護連盟 代表</li> <li>・ 島田 勉：NPO 法人行田ナチュラルリストネットワーク 研究部長</li> <li>・ 須永 伊知郎：公益財団法人 日本生態系協会 理事</li> <li>・ 橋本 恭一：NPO 法人行田ナチュラルリストネットワーク 代表 (行政・関係機関)</li> <li>・ 千代田町 環境保健課／都市整備課</li> <li>・ 明和町 都市建設課</li> <li>・ 行田市 道路治水課</li> <li>・ (独) 水資源機構 利根導水総合事業所</li> <li>・ 利根川上流河川事務所</li> </ul> <p>(学識者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浅枝 隆：埼玉大学大学院理工学研究科 教授</li> </ul> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利根川上流河川事務所 ・ (公財) 日本生態系協会</li> </ul>

## 【会議の様子】



### 【内 容】(敬称略)

#### 1. 挨拶 (利根川上流河川事務所 (以下、「事務局」という))

いよいよ治水と両立した環境の創造に向けて具体的に動き出していると考えている。前回の検討会の結果を踏まえ、車両の侵入状況や対策状況、掘削について水辺再生ゾーンのきめ細かな考えを示させていただきながら、今後の掘削の方法をご検討いただきたい。

#### 2. 議事

##### 1) 議事の進め方について

- 前回の検討会での「議事進行は第三者的な立場の人に務めてもらうべきではないか」とのご意見について事務局で検討した結果、〇〇さんをお願いするのがよいのではないかと考えている。利根川の「河川水辺の国勢調査アドバイザー」を長年務めていただいております、利根川に係る現地の状況にも明るいことから、利根大堰周辺の実情にあった調整・とりまとめをお願いできると考えている。(事務局)
- 前回からの経緯について、教えていただきたい。(団体)
- 学識者等への打診はしていないが、利根川全体にも関わっており、この地域近辺や埼玉県にも詳しい〇〇さんをお願いしたいということで、本日提案した。(事務局)
- 反対はしないが、検討会の検討対象は、利根大堰周辺の埼玉県と群馬県の境界をまたがった範囲になっている。〇〇さんの所属は、全国対象の団体にしてもらえないか。(団体)

●

⇒一同、異議なし。

- 前回の検討会で、座長の選出についての記述を加えた規約案を自分の方から示した。座長を置くのであれば、規約第3条に「本会において議事進行や意見集約等を行う座長を置き、本会会員のうち互選によって定める。」を加え、〇〇さんについては委員にした上で互選によって選ばれた、とした方がよいのではないか。(団体)
- 皆様、規約の変更については、そのような方向でよろしいか。(事務局)

⇒一同、異議なし。

- 次回、ご指摘を受けた見直しを行った規約を提示させて頂きたい。一言ご挨拶の上、議事進行をお願いしたい。(事務局)
- 利根大堰下流の掘削について、治水と環境の両立ということで検討がはじまった平成14～15年当初から、河川水辺の国調アドバイザーとして関わってきたが、改めて関わりをもたせて頂くことになった。利根川は全国を代表する大河川であり、来年で平成9年の「河川法改正」に環境が加えられ丸20年になる。その意味でも、どう治水・利水と環境を一体化させていくか、ここでの検討はまさに「河川法」に基づく取組みを皆さんとの協議の中で、具体化・両立して

いく場だと認識している。ぜひ、実りある議論の場にしていただきたい。(コーディネーター)

## 2) 検討会に係る情報の発信について：資料1

- ホームページの中で、私たちが提出した要望書や公開質問状などが回答も含めて公開されている。最近のものが示されていないので、今年度の申し入れ文書なども公開してほしい。(団体)
- 今回の大堰に関する申し入れは水機構に対してのものだったので、利根上HPのこのページということにはならないのではないかと。(コーディネーター)
- 利根川上流河川事務所にも出しており、6月9日の申し入れの2番目の件などは、この検討会に直接関係するものである。(団体)
- 検討会に関する事項については対応できると思う。水資源機構の工事に関わるものについては検討させて頂きたい。(事務局)
- 大堰工事等については、今日の議事内容とも関連もあることであり、どこまでどう載せるかや、載せられる所とそうでない所の整理を検討してほしい。(コーディネーター)
- 資料3のp2にあるようなエリア全体のイメージ図や鳥が水辺にいる図など、とても効果的で良いと思うので、メディアなどにも出すとよいのではないかと。さっそくだが、9月14日に地域の環境に関連する集まりがあるので、そこでも今回の取組みを紹介できればと考える。そろそろ外部への情報発信についても、積極的に考えてもいいのではないかと。(団体)
- 決まったことについては、なるべく広く周知して貰うことが意義のあることだと思う。環境団体も含め、関係機関とも連携して幅広く周知して頂けるとよい。(コーディネーター)
- 会議の資料についても、どこまで出していいかだけ教えて頂ければと思う。とりあえず9月14日に集まりがありぜひPRしたいと思うので、それまでに教えて頂きたい。(団体)
- 周知方策については、自治体からも前回ご意見を頂いた。千代田町、明和町、行田市の各自治体のホームページにも出して頂けるかもしれないとのことだが、ぜひ自治体レベルでもホームページの分かり易いところに掲載して頂けると有難い。自治体の方々も、効果的な広報を進めるということをご了解頂ける、ということでもよろしいか。(コーディネーター)
- 自治体一同了解。

## 3) 車両侵入抑止対策の効果について：資料2

- 何回か現地に行っているが、以前に比べ車両侵入の面で格段に抑制効果があがったように思う。(コーディネーター)
- p6の掘削水路の写真を見ると、人工的にビシッと掘られていてドライバーへの威嚇効果はあるかと思うし、洪水がくれば崩れていくとは思いますが、それであつてももう少し深い所、広い所などの自然な掘り方ができるとよいのではないかと。この水路自体が自然再生の一端を担っていると思うので、もう少し多様な掘り方を考えて頂けるとよいと思った。(学識者)
- 漁協からの申し入れで、工所用道路まで一部入れるようにして駐車場をつくったとのことだが、駐車場に行くまでの途中から水辺に車両が入りこめてしまうのではないかと心配している。段差があるので大丈夫だとは思いますが、この点についてぜひご配慮頂ければと思う。また、漁協の方にも工事の間については少し我慢して頂くような要請も必要なのではないかと。(団体)
- 柵を造ったり堀を掘ってもらって効果が抜群だった。環境面でもそうだが、人への安全面でもよくなった。まだ車両侵入や破壊行為もあるとのことだが、破壊行為については警察と話して貰ったとのこと良かった。警察の名前が出ることは、抑止力が相当あるのではないかと。p12に車両侵入ルートとあるが、今年は特に濁水で入り江の部分の水路が干上がってしまった。私が調査を始めた48年前は、この中州はぺちゃんこで礫河原のような状況だった。今は数メートルの高さの泥の中州、オギ・オオブタクサなどが生い茂っている状況。個人的にはこの中州は思い切って掘り下げ、礫河原のようにして入り江状の水路も掘り下げれば、車両も

入れなくなるのではないか。中洲の水路の脇にある細い水路は湧き水の水路なので、こういうところはしっかり守って貰いながら、対策を進めて貰えればと思う。(団体)

- この地域の自然環境の実情について、〇〇さんほどよく知る方は他にいないと思うが、その〇〇さんが効果抜群との評価をされたということと思う。資料3のp13にある参考資料のところ、前回までの検討会で当面整備を行う3つのゾーンが示されているが、今お話しがあった中洲の部分はこの下流部分に当たる。いきなり全部の面的整備は無理なので、皆さんの合意が得られているゾーンとの兼ね合わせの中で、下流部について車両の侵入抑止に必要な掘削について行うことになると思うが、そういうことで宜しいか。(コーディネーター)
- 漁組の方には、検討会や対策の話はしており、対策のための柵の設置までご理解頂いている。水辺まで車で入りたいという要望もあったが、それはしない方向でご理解頂きたいと話している。下流の方も上流と同じ要望が出てきた場合は、同じような対応をしたいと考えている。9月の漁組の総会でも、この検討会のことは報告したいと考えている。(事務局)

#### 4) 水際再生ゾーンの整備について：資料3

- 掘削場所を先日見せてもらった時は、真っ平らな印象が強い。工事中道路沿いの北側のオオブタクサのジャングルのイメージが強く、掘削地も真っ平らなままだと周囲と同じオオブタクサのジャングルになってしまうと大変なことになる。早めに図に記されている池やワンドを、早く造って頂くのが良いと思う。(団体)
- 掘削地の写真を見ると、おそらくあつという間に草が生えてしまうと思う。池を造ることになっているが、かなりの期間水がたまることを想定した掘り方をした方がよい。そうでないとヨシなどが、あつという間に生える。草が生えることで土砂が溜り易くなり、湿地でなくすぐ陸になってしまう。こういう河川地形の場合、水際から少し入ったところにちょっと高くなった自然堤防ができ、その内側に後背湿地ができるのが普通。水際から後ろ側を少し深めに掘っておくと自然地形に近い環境が出来る。上流に向かって掘り進めていく時も、そういう形がよいと思われる。(学識者)
- 私自身もオオブタクサを心配している。セイタカアワダチソウ等よりも早く、9月には種子散布の時期に入る。今日のように水がついていれば大丈夫だが、掘り方が浅いと乾いてオオブタクサのジャングルになる。(コーディネーター)
- 池もただ水があるだけでなく、例えば深い池などは水路の水がそのまま入るような形状がいいと思う。水路も深い所や浅い所があるといい。特に大事なのは、冬の間の水の確保。コウノトリだけが大事ではないが、冬に河川で餌を必要とするコウノトリをイメージして作れば、他の生きものにもいい湿地環境ができると考える。(団体)
- 掘削エリアでワンドを造るのであれば、水路の幅をただ広げるだけでなく、深池につなげるなどの形にしてはどうか。(団体)
- 自然の地形であると、入口に沿って下流に向かって砂嘴が伸びるので、入口は少し狭くなり陸側に広がる。そういった自然に近い形で作るのがよい。普段は陸地になっている部分が多いので、普段から色々な生きものの交流ができる環境にした方がよいと思う。(学識者)
- 整備場所の水位等のモニタリングもするということが、利根川の冬場や夏場の水位も分かると思うので、それに基づいて掘る深さを設定して頂ければと思う。(団体)
- 工事の実行部隊としては、基本的に多様な掘り方をするという原則を踏まえて、今出た意見を入れながらかつ現実的な工事のやり方を加味し、モニタリング結果も活かして、今後の効果的な湿地整備につなげていくということだろう。(コーディネーター)
- ロードマップ案で気になるのが「新たまり池」の創出が2018年度からになっていること。水資源の大堰工事でカエルの生息地がかなり失われているので、「新たまり池」の創出は代償として重要な意味を持つ。2018年以降の創出となると大分先になる。水資源機構と利根上流河川

事務所と工事の主体は異なるが、整合性をもたせる意味でもう少し早く、できれば来年度からやるべきではないか。(団体)

- スケジュールに関しては、最下流部のゾーンを今年度掘削し、更に来年度も今年度のエリアから上流に向かって引き続き掘削予定とのこと。掘った場所がどうなるかは、その場所の流況によって水のたまり方が違ってくる。試験的なことも含めて今年度から進めて頂き、その成果を上流側に活かしていくという事になるかと思う。p5の図面については、試験的な掘削を行い、モニタリング結果を次の掘削に活かしていく方向をご提案頂いたと聞いている。今後の掘り方については、深さ・形状等を工夫して掘って頂くということにしたい。上流側の掘削をなるべく早く、というご意見については、河川工事では下流から上流に向かって掘るのが一般的であるとのこと。また、「新たまり池」については水資源機構の方でも提案されているようなので、そちらのご説明を伺った上で、併せて議論できればと思う。(コーディネーター)
- 今の状況が、絵を描きながら掘削するという同時並行的なやり方となっているので、今後は早めに絵を描き、絵をご検討頂いた上で掘削を進めるのがよいかと考えている。ある程度順応的な管理をしていかななくてはならない中で、色々な掘削を試験的に実施しながら、その知見を活かしながら掘削を更に進めていく必要がある。その意味でも、ご意見も含めながら、早めに長期的な絵を作りつつ、進めていけたらと考えている。(事務局)
- 今後、掘削結果を最大限活かすと共に全体の計画も絵に示しながら進めていきたい、とのことだと思う。(コーディネーター)

#### 5) 利根大堰耐震化工事について：資料4

- ニホンアカガエルに関する資料を私の方で持参したので皆さんに配布してほしい。群馬県レッドデータブック改訂版の一部だが、県内で12地点でしかニホンアカガエルが確認されておらず、その内の一地点が大堰下流になる。その意味でも、いかにこの場所が重要かが分かる。今回の環境保全対策の象徴的な種で「要」となると思う。先程話のあった利根川上流河川事務所の「新たまり池」と水資源の「試験止水池」の整合性・関連性について、双方でどのように捉えているのか。(団体)
- 新たまりを創出する上での工事の参考とさせて頂く、という事で連携を図ればと考えている。(事務局)
- ニホンアカガエルの重要性を是非認識頂いて取組んで頂きたい。水資源の本社の年次レポートがHPで公表されており、基本方針で環境保全・環境対策の実施が重要であると位置付けられている。それらも踏まえて、アカガエル等の保全対策をやって頂くことを改めてお願いしておきたい。(団体)
- 今回の水機構の試験止水池と利根上の新たまり池は近い場所になると思うが、工事時期が異なる。水機構の試験が、今後の利根上の掘削の役に立つように、止水性の動植物が安定的に生育・生息可能になる方向に向けて、相互に連携をとりながら進めて欲しい、という趣旨だと理解する。(コーディネーター)
- 今年度は対策内容に対する関係者との合意形成の仕方に不十分なところもあったが、今後は関係者との調整を図りながら、前向きに環境配慮に取り組んでいきたい。(水資源機構)
- 人為的な施設の範囲内での環境対策には限界がある中で、隣接河川敷に安定的な止水環境を作り上げていこうということなので、連携しながら進めて頂ければと思う。(コーディネーター)
- 今後、台船による工事を予定しているという事だが、利根上に情報公開して入手した資料の中では、それ以外にも工事があるということが分かる。台船工事が行われると、水鳥は他の場所に行くと思うが、他の場所でも工事をするとなると懸念が残る。影響が出ないような対策をお願いしたい。〇〇さんが現地で最も調査されているので、助言・協力を仰ぎ、効果的な保全対策が行われるようお願いしたい。(団体)

- 上流域で機構が直接行う予定の工事は今年度以降はないと思うが、他の工事との関連については再度確認をさせて頂きたい。(水資源機構)
- 工事にあたっては、自然だけでなく社会的な調査の両方が必要だと思う。水資源機構が、水鳥調査を行うことは大変いいこと。今まで考えていなかったのが、この検討会を開くことで、そうした考えになったのだと思う。事前の調査、工事中の影響、工事後の影響を調べる必要がある。季節的な変化があるので、月3回は最低限調査してほしい。調査頻度は高い方がいい。また、調査は信用のおけるきちんとしたところに頼んでほしい。意見を言ったり相談にはのるが、私に個人的に調査を依頼して、私が言った事がお墨付きになるようなやり方はやめてほしい。福川合流部は、特に重要。オオバン、ヨシゴイも繁殖し、カンムリカイツブリも繁殖の可能性が高かったが、橋をかける工事をしたので、それが影響した。狭い所が特に重要だが、ジェットスキーが通るのがよくない。3年前はツクシガモが11羽も越冬した。そういう意味できちんと調査をし、治水とあわせて良い環境対策を実施してほしい。(団体)
- 工事の予定はないということだが、情報公開では河川の掘削箇所が出てくる。工事が未契約なので情報公開できないとよく言われるが、水鳥の生息範囲で工事の予定があるのであれば、できるだけ早く情報を公開して貰いたい。荒川上流河川事務所の環境保全連絡会では、できるだけ情報は公開する中で皆で協議していこうとしている。早めに情報を出して頂き、皆さんで検討するという事でお願いしたい。(団体)
- 環境に配慮した工事は、1回で上手くいくとは限らない。やりながら、試行錯誤しながらでいいと思う。全国的に見てもここが実験的な場所になってほしいと思う。上流側の左岸で泥をとったところがあるが、とってそのままではなく、できれば実験区的に入り組んで造ったり、深い所・浅い所を造ったりなどして貰いたい。ちょっと寄って見ただけでも、サギやカモ類なども大分来ている。そういった事ができると面白いのではないか。(団体)
- 上流左岸は、この冬に掘削をする予定。地元の千代田町からも地域振興も兼ねてレガッタのための掘削を要望されている。同じ左岸の上流側で掘削の機会があれば、そのようなことも考えていきたい。(事務局)

6) 今後の予定について：資料5

- 第7回の検討会の開催を1月～2月で考えている。(事務局)
- 工事内容は、あらかじめ出来る限りの範囲で早い段階でお知らせ頂きたい。できれば、資料は事前にお送り頂けると検討の余地がもっとあると思う。(団体)

以上